

校友会報

日本大学工学部校友会

第78号 平成27年3月1日



INDEX

- ごあいさつ 2
- 平成26年度 第57回通常総会報告..... 3
- 第34回「母校を訪ねる会」を開催 4
- 平成22年度卒業生・修了生を迎える会 7
- 校友会キャンパスツアー報告 8
- 「母校を訪ねる会」校友茶会 9
- 平成26年「母校を訪ねる会」「同級会」に参加して .. 10
- クラブ・OB・OG会報告 14
- 支部活動報告 15
- 校友レポート 19
- 工学部NEWS 20
- 校友会NEWS 22

ごあいさつ

工学部長 出村 克宣



平成 27 年の早春を迎え、校友の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災とそれに伴う原発事故からの復興は道半ばにあります。しかしながら、皆様方からの様々なご支援と教職員の懸命な復旧・復興作業により、工学部キャンパスについては、安全・安心な教育環境を取り戻すことができ、平成 26 年度においては、全ての学科で定員を上回る新入生を迎えることができました。校友諸氏のご支援に対し衷心から御礼申し上げます。

さて、1972 年のローマクラブのレポート“The Limits to Growth”が人間の諸活動による環境負荷が社会の存続に対して重要な問題を含んでいることを指摘し、1987 年発行の国際連合の環境と開発に関する世界委員会第 96 回会議最終報告書“Our Common Future”が持続可能な開発“sustainable development”という

概念を提示しました。これらのことは、人類活動は地球の持続性が損なわれないことを前提とすべきことを提唱したものです。

そこで工学部では、1999 年に教育・研究のキーワードをロハス“LOHAS”とし、それを実現するための工学的アプローチを「ロハスの工学」と称して諸活動を展開しており、最近では、『ロハスの日大工学部』と認識されるようになってきました。

「ロハスの工学」に立脚した教育・研究活動は、〈心身ともに健康な“ひと”〉、〈自立共生の“家”〉、〈活力のある“地域社会”〉、〈安全・安心な“インフラ”〉、〈美しい“自然”と豊かな“環境”〉の実現を目指すもので、ふくしま再生・地方創生の一助となり得ると考えております。これからも、ロハスの工学は工学技術者・研究者にとって重要な視点であるという認識のもと、教職員一丸となって教育・研究活動に携わってまいります。

今後とも、工学部の教育・研究活動にご支援を賜りますようお願い申し上げますと共に、校友諸氏のご健勝とご活躍並びに、工学部校友会のますますの発展を祈念いたします。

校友会会長 手塚 公敏



平成 27 年の早春にあたり、校友の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また、平素は、母校はもとより校友会に対して限りないご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、東日本大震災から早 4 年が経過いたしました、工学部構内は学部当局の除染作業の実施により、今日では快適な環境となりました。しかし、福島県内の除染の状況を鑑みますと、その現状は未だ不十分で、そこに住まう人々と東北復興のためにも、関係所轄には何はにおいても早急に対策の実行をお願いしたいものです。

一方、工学部校友会におきましては、平成 26 年度にもいくつかの事業を行って参りましたが、そのいくつかをご紹介します。総括したいと思います。

まず、平成 25 年度における工学部学生の就職率は薬学部を除き、日本大学全学部の中で最高（約 97%）の就職決定率でありました。それは、今年度より父母会の支部会合に校友会の支部役員を出席させ、あるいは校友会の支部総会へ父母会の役員の方々に出席いただき、学生、父母の皆様との就職に関する情報・希望をお聞きして、相互の理解と情報の共有に努めておりますが、これらのことが就職率を高める一因にもなっているのではないかと考えております。今後も、校友会としては学生の就職率アップのために、要請があれば積極的に協力を惜しまないつもりであります。

平成 25 年度より編集作業を進めておりました「校友会名簿」が、昨年 9 月に予定通り完成致しました。校友会会員にのみ販売をしておりますので、事務局へ申し込み

ご入手下さい。

震災のため卒業式を挙げる出来なかった平成 22 年度卒業生を対象とした「卒業生・修了生を迎える会」を、恒例の「母校を訪ねる会」で、合同開催いたしました。平成 22 年度卒業生にとっては 3 年目にして迎えた卒業式(?)でしたが、120 余名の卒業生が参加されました。同席した先輩方も、僅か 3 年目にして見せる彼らの成長した姿に、十分な満足感を抱かれたことと思えます。

また、今年度より「母校を訪ねる会」に来校する卒業生のために、「学内キャンパスツアー」を実施致しました。今浦島の感のある先輩方には、学内の現状を説明してもらえるので非常に好評で、この事業は今後も継続していきたいと思えます。

最後に平成 27 年 1 月 24 日に「校友校長の集い」を工学部と校友会共催で行いました。これは工学部校友会教員部会（通称：アカシア教育研究会）の会員である棟方克夫磯子工業高等学校長（工化 26）が、この度「公益社団法人 全国工業高等学校長協会」の理事長に就任されたことを機として、工学部を卒業して主に全国の工業高等学校で校長あるいはそれに準ずる職務につかれていますの方々 11 名が集まり、学部および校友会を交えた三者による意見交換会を行ったものです。校友校長先生方の母校を思う気持ちは強く、多岐にわたる要望と意見が交わされ非常に有意義な会であったと考えております。校友会としては今後も大学と協力して、大学及び校友会発展のため一層努力して参ります。

末筆ながら、皆様のご健勝とご発展をご祈念申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

平成 26 年度 第 57 回通常総会報告

平成 26 年 4 月 26 日(土)、工学部 62 号館 3 F 大講堂にて平成 26 年度第 57 回通常総会が開催され、全国各地より多数の校友が参加しました。また今回も体育会、学術文化サークル連合会、北桜祭実行委員会、応援團に所属の学生が数名参加しました。

議事は承認事項、議案事項ともに賛成多数で可決しました。また、本年度は役員改選の年にあたり、手塚公敏会長が三選を果たしました。校友会新役員については別表の通りです。

総会后行われた懇親会では日本大学本部関係者や工学部関係者、他学部校友会代表者をご招待し盛大に行われました。工学部卒業生同士も学科、卒業回を超えた交流がありました。懇親会では仕事面の人脈を広げるといったことでも活用出来ます。次回は平成 27 年 4 月 25 日(土)に開催されます。どうぞ皆様も奮ってご参加下さい。

● 校友会功労者の表彰

本会の会務遂行ならびに発展に貢献した功労者 6 名に表彰状、記念品を贈呈しました。

所属	氏名	卒科回	活動歴
関東支部	福井 清	土14	関東支部活動、特に群馬県担当として尽力する。
東東海支部	野口 昌孝	機15	東東海支部設立にあたり、その中心となり尽力された。
東海支部	鈴木 健夫	土14	平成 11 年度より理事の役職につかれ平成 26 年 1 月に他界された。また会社(新晃コンサルタント)を東海支部の事務局として利用させていただいた。
四国支部	鎌田 正昭	土14	四国支部の前身である香川アカシア会の設立、その後の四国支部の発足に寄与。
教員部会	大山由紀夫	建29	教員部会の発展に努め、さらに青森県支部設立の中心として尽力された。



[別表] 校友会役員 (任期：平成 26 年 4 月 26 日～平成 29 年総会開催日)

(敬称略)

役職名	氏名	卒科回
会長	手塚 公敏	土 16
副会長	中野 伍朗	化 16
〃	深野 一男	土 20
〃	金澤 昭治	土 20
〃	長澤 幸二	電 20
〃	水上 崇	建 22
〃	杉崎 一馬	土 26
幹事長	渡澤 正典	建 14
副幹事長	土方 吉雄	建 23
常任幹事	鈴木 廣	土 19
〃	田中 敏夫	建 19
〃	柳 啓	建 19
〃	小林 啓一	土 20
〃	土岐 悦雄	建 20
〃	久野 清	建 21
〃	城座 隆夫	機 21
〃	秋葉 敬治	土 22
〃	古河 幸雄	土 23
〃	縫 裕訓	機 23

役職名	氏名	卒科回
常任幹事	五島 邦夫	機 23
〃	相原 茂	土 24
〃	菅家 和洋	土 24
〃	高橋 健二	土 24
〃	高橋 晃一	土 26
〃	蔭山 寿一	建 28
〃	永田 直史	機 29
〃	田村 賢一	機 30
〃	千代 貞雄	化 30
〃	阿部 充宏	土 31
特別顧問	木村 圭二	建 3
〃	佐藤 光正	機 9
〃	加藤木 研	電 12
相談役	村田 吉晴	土 12
〃	鈴木 恒雄	建 17
会計監査	藤島 寿	機 20
〃	小田 真司	土 34
〃	宗形 彰久	土 36

役職名	氏名	卒科回
幹事	木原 進	土 21
〃	平山 正晴	土 24
〃	小松 和幸	建 25
〃	田口 正英	建 26
〃	西家 千尋	建 28
〃	松崎 信一	建 29
〃	吉田 靖博	土 30
〃	渡邊 英彦	土 30
〃	柳沼由美子	化 30
〃	馬場 浩身	電 35
〃	松本 力	土 36
〃	山本 健史	建 37
〃	田井 秀一	電 38
〃	佐久間 啓	機 40
〃	野内 英治	建 41
〃	真壁 知史	情 1
〃	大山 勝徳	情 5
〃	齋藤 義高	土 50

第34回「母校を訪ねる会」を開催

北桜祭（工学部祭）の最終日にあたる平成26年10月26日（日）、第34回「母校を訪ねる会」が開催されました。今回は、2011年の東日本大震災の影響で卒業式が中止となってしまった平成22年度の卒業生・修了生を迎え、卒業式の代わりとなる「平成22年度卒業生・修了生を迎える会」との合同開催となりました。

秋晴れの中、「母校を訪ねる会」には207名のご参加をいただき、「平成22年度卒業生・修了生を迎える会」は



第12回・昭和39年卒



第22回・昭和49年卒

140名が参加され、総勢347名での例年に増して賑やかな懇親会となりました。例年好評をいただいている応援団による校歌・応援歌斉唱に加え、今回は、在校生サークルのYOSAKOI隊による演舞などの催しがあり、例年以上の盛り上がりを見せました。

奥様も同伴で参加されていらっしゃる方々を例年より多く見かけ、ご夫婦で楽しまれている姿や、参加された皆様、旧友や恩師との再会を喜ばれている様子がとても印象的でした。

次回は、13回、23回、33回、43回、53回卒の皆様が対象学年となっておりますので、たくさんの皆様のご参加をお待ち申し上げております。

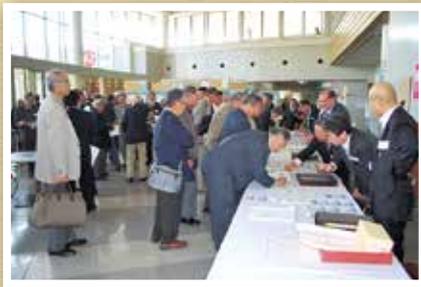


第32回・昭和59年卒、第42回・平成6年卒、第52回・平成16年卒



平成22年度卒業生・修了生を迎える会

母校を訪ねる会 平成26年10月26日



平成 22 年度卒業生・修了生を迎える会

3年越しの卒業式

機械 59 回卒 広瀬 陵丞



まず始めに、この度「平成 22 年度卒業生・修了生を迎える会」の開催にご尽力いただきました関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。2011 年 3 月 11 日の東日本大震災の影響で実施することができなくなってしまった卒業式を、このような形で開催していただき大変嬉しく思っております。当日は現在住んでいる愛知県から足を運び、今でも交流のある同窓生たちと合流し、キャンパスへ向かいました。

震災から 3 年以上経ちますが、工学部の皆様の除染・復興活動により当時と変わらぬキャンパスの風景を拝見することができ、思い出が蘇って来ました。工学部のシンボリックな建屋の 70 号館では、機械工学の基礎はもちろん、心理学、文学といった様々な講義を受けました。自炊が面倒だった私は遅くまでやっている学生食堂をよく利用しました。3 年生から入った研究室では先生や先輩にアドバイスをもらいながら日々実験に取り組みました。グラウンドでは毎日日が暮れるまでキャッチボールやサッカーなどで体を動かし汗を流しました。すべての思い出が非常に懐かしく感じられました。楽しい時間を過ごしていたなど、学生時代に戻りたくになりました。

お世話になった横田教授のもとを訪れ、近況についてお話させていただくこともできました。何より、今でも我々のことを覚えてくださっており、当時の出来事、我々の様子を聞くことができ感激致しました。

また当日は、北桜祭が開催されており、よさこいの演舞を披露する学生たちの姿を見ることができました。後輩たちの元気な姿を嬉しく思いました。

懐かしい時間はあっという間に過ぎていきましたが、郡山で働いている仲間、地方で就職し働いている仲間、様々な地で、様々な環境でそれぞれが頑張っている話を聞き、刺激を受けたとても貴重な時間でした。一社会人として、一日本大学工学部OBとして、これからも仕事にプライベートに、何事にも全力で取り組んでいこうと思います。そして、またいつか、いつまでも、素晴らしい仲間と楽しい時間を過ごしたこの郡山の地に集いたいです。

「北心賞」を受賞して

土木 56 回卒 西山 孝樹



左手には安達太良山がそびえ、右手には阿武隈川が悠々と流れる。東京発のやまびこ号が工学部の広大なキャンパスを横目に見ながら、減速し始めた。そろそろ郡山駅へ到着する。

今から 10 年余前、大きな荷物と不安を抱え、郡山へ降り立った入学時を思い出します。私は、大学・大学院と 9 年間をこの「まち」で過ごし、多くの校友とも出会うことができました。困った時には、お互いが助け合い、手を差し伸べてもらうことも多々あった。本当に幸せな時間を過ごすことができたと思う。駅から大学へと向かうバスの車窓から、見慣れた景色に目をやりながら、学生時代をふと思い返していた。

『母校を訪ねる会』が催される 50 周年記念館に到着すると、土木工学科の多くの先生から「久しぶりだな」「元気にやっているか」と声をかけていただき、温かく迎えてくださった。東日本大震災の卒業年度生が対象となった『平成 22 年度卒業生・修了生を迎える会』も共催され、本年度新設された「北心賞」を多くの諸先輩に見守られるなか、授与いただいた。

「北心賞」の受賞対象となった論文のテーマは、「紀の川上・中流域における近世中期以前の灌漑水利の変遷に関する研究」であり、平成 24 年度の土木学会論文奨励賞をいただいたものである。先の論文では、古文書や絵図による解析に加え、GIS データを用いて史実の精度を高めて論考し、新しい史観を提起することができた。

これもひとえに、私を土木史研究の道へと導いていただいた藤田龍之教授、卒業研究以後の 6 年にわたって指導いただいた知野泰明准教授に対して、感謝の念に堪えない。

2013 年 3 月に大学院博士後期課程を修了し、博士(工学)の学位を取得。同年 4 月から理工学部まちづくり工学科の助手に着任して、2 年が経とうとしている。初心を忘れる事なく、コツコツと積み重ねた成果を軸として、研究に邁進していきたい。



校友会キャンパスツアー報告「47名が参加」



昨年10月25日(土)・26日(日)の2日間、第64回北桜祭に合わせ、母校を訪ねる会該当校友を対象に、「校友会キャンパスツアー」を企画しましたところ、多数のお申し込みがあり、47名が参加しました。両日とも、天候に恵まれ、25日は午前と午後の2回、26日は母校を訪ねる会終了後に、3班に分かれて約1時間40分にわたってキャンパス内の校舎建物を見ながら散策し、4箇所の見学をしていただきました。

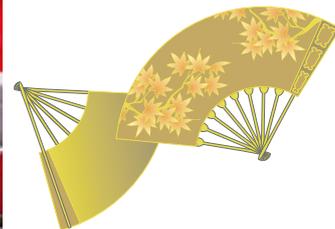
見学1箇所目『ロハスの家』では機械工学科の伊藤耕祐先生・宮岡大先生・研究生の皆さんに、見学2箇所目『ロハスの橋』では土木工学科の岩城一郎先生・子田康弘先生・研究生の皆さんにそれぞれ解説いただき、見学3箇所目、毎年開放している『歴史資料室』では校友会の木村圭二特別顧問が各コーナーを案内しました。

見学4箇所目の70号館9階の展望フロアからは郡山の360°を堪能してお開きとなりました。今回、ご参加いただきました皆さん、初めての企画にご参加いただき、ありがとうございました。そして、見学箇所で解説いただきました、各先生、研究生の皆さんにも、厚く御礼申し上げます。次年度も実施予定です。



「母校を訪ねる会」 校友茶会

今年度も母校を訪ねる会に併せて、校友茶会を開催しました。卒業生をはじめ、たくさんの皆様にお越しいただいたおかげで、大盛況でした。今年度より、茶道同好会から茶道部へ昇格し、活動している学生に、茶会の運営を協力してもらいました。校友茶会は、例年同様、卒業生の皆様に大変お喜びいただけました。



母校を訪ねる会と茶道部

機械工学科 3年 芝岡謙太郎

前年度に引き続き、平成 26 年度もまたお茶会を設けさせていただきました茶道部でございます。

実は前年度と違う箇所がありまして平成 26 年度において茶道同好会から茶道部へと昇格することが適いました。これもお引き立てくださった校友会、母校を訪ねる会参加者の方々、並びにご厚意で指導のために訪れ続けてくださった馬場教諭、佐藤教諭のご教授、ご鞭撻のためのものでございます。この場を借りて皆様に御礼申し上げます。

今年のお茶会はいかがでしたでしょうか、部員一同で前回よりより良いおもてなし、お点前、作法を目指しています。大学で催されるお茶会ですので、母校を訪ねる会にお越しいただく方々や、学生、先生方にもっと受け入れていただけるように開放的な、それでいて普段触れない文化を楽しんでいただけるような催しを目指していくことが今後の課題であると今年強く感じたところであ

ります。

今年は東日本大震災の影響により卒業式を実施できずにいた方々の参加もあり、例年に比べましても大変にぎやかな会となりました。お茶会を通して我々もそれに触れましたが、参加された方々の思い出話や久々の歓談に一花添えることができたのではと感ずることができました。それも皆様からの茶道に対する関心、また部に対する期待とも感じられ身の引き締まる思いでもあります。来年度からは徐々にではありますが、学校への貢献ができるような機会を増やすことを探っていくとともに、より多くの方により良いお茶を振る舞うことを目標に部員一同精進していく所存でございます。

最後になりますが、母校を訪ねる会の参加者の方々、校友会の皆様、大学関係者に対し、感謝をささげるとともに皆様のご多幸とご健康をお祈りすることで結びの言葉とさせていただきます。

平成 26 年「母校を訪ねる会」「同級会」に参加して

母校を訪ねる会同級会

土木 12 回卒 鈴木 宣孝



この度「母校を訪ねる会」に合わせ今年度も（毎年出身県での持ち回りで開催しております）13名が出席して同期会を行いました。

乾杯の後、校友会の手塚会長（代理）の出席を戴き、ご挨拶と校友会の近況報告が有り、出席者の近況報告及び残念ながら欠席された方の動向、それから土木科同期で11名が亡くなられた事等が報告されました。

又、我々の卒業年は、東京オリンピックの開催、東海道新幹線、東名自動車道路の開通など輝いていた時代の昔話で楽しい一夜を過ごしました。



卒後50年

母校の空気はやっぱりいいな

建築 12 回卒 吉田 宏

毎年、級友を自分の故郷に招く伝統の同級会「日大工建 39 会（会長 高坂祐喜子）」は 2013 年、金沢で開催しました。その折、卒後 50 年に当る今年 2014 年は「母校を訪ねる会参加」と「39 会 in 磐梯熱海温泉開催」を決めました。お世話は郡山在住の神野寛君。

10 月 25 日（土）「四季彩一カ」には級友 18 名奥様 2 名、計 20 名の顔ぶれがそろい無事開催。一同、気心知れた学生時代に戻り、恩師谷川正巳先生の日本建築学会名誉会員ご推挙を睦子奥様とともに先日祝ったことや、今は亡くなられた恩師、元気な恩師の思い出を語り合い、仲間の武勇伝を讃え合い、青春を歌う喉自慢に盛り上がった一夜でした。当番幹事さんに感謝。

湯につかり、地酒や肴で英気を養った？一行は翌朝、貸切りバスで母校へと移動。うれしいことに、キャンパスでは 50 年ぶりの級友と出会い「母校を訪ねる会」の参加者は総勢 21 名となりました。

受付を済ませ、丁重な茶道部の茶菓を味わせていただいたあと、地域とのふれあいを伝統とする「北桜祭」の賑わいに足を踏み入れ、学園の景観に隔世の感を覚えながらも、母校の空気を胸いっぱい吸ってきました。

建築模型が展示された 1 号館の建研建築展では、孫のような現役学生の「つくる」思いを頼もしく聞かせてもらいました。54 号館 2 階ではお世話下さっている野口徹雄先生の指揮指導のもとに励む、管弦楽部現役学生や O B の皆さんのゲネプロをそっと拝聴することができました。「楽器から出る音より床をたたく足音の方が大きい」と言われた管弦楽部創成時の小生にとっては、その美しい音色に感動しました。心で拍手！

総合写真を撮り終え「平成 22 年度卒業生・修了生を迎える会」「平成 26 年度母校を訪ねる会」の懇親会に臨むと、参加者の多さ学生食堂の広さに驚きましたが、真昼間から食べて飲んで贅沢を味わせていただき、一同、



誠に幸せなひとときを過ごすことができました。

これもひとえに、出村克宣工学部長、手塚公敏校友会会長はじめ母校・校友会事務局の皆様、一生懸命励んでおられる現役学生の皆様、応援団、茶道部の皆様のお心遣いの賜物と、心から感謝申し上げ厚くお礼を申し上げます。母校・校友会のますますのご発展と母校を近づけてくれる「訪ねる会」のますますのご盛会を心から祈念しつつ、建築 39 会を代表して感謝とお礼の手記をお送りいたします。ありがとうございます。

母校を訪ねる会と第13回機械三九会

機械 12 回卒 小山 泰

機械科第 12 回（昭和 39 年 3 月）卒業の我々は、「三九会」と称したクラス会を時々開催してきていますが、卒業して 50 年の今年は、「第 34 回母校を訪ねる会」（H26.10.26）にご招待を頂きましたので、多くの仲間に連絡して地元及び関東地域や遠くは大分県、滋賀県、岩手県、山形県などからも集まり、総勢 20 人が参加し、その後岳温泉に近い新おおたま温泉でクラス会を行いました。

10 年前の「第 24 回母校を訪ねる会」にも同様にご招待を頂き、皆で参加し、クラス会も行いましたが、その時は、新潟県中越地震の翌日でしたので、よく記憶に残っています。今回は東日本大震災の影響で卒業式が中止となった H22 年度の卒業生・修了生も招待されていて、「H22 年度卒業生・修了生を迎える会」も開催されて意義深いことでした。今回もよく記憶に残ることと思います。

校内は、除染工事も終了し、学部祭連携企画の「校友会キャンパスツアー」が行われ、校内をつぶさに見学出来て有難いことでした。以前から鋭意取り組まれている「健康・再生可能エネルギー・安全安心社会づくり」を視点とした口ハス工学の着実な成果発展が伺えたことは素晴らしいことであろうと思われました。歴史資料館が立派に整備され、我々が通っていたころの数々の思い出資料に巡りえたのは嬉しいことでした。資料整備にご尽力された先輩関係者の皆様に敬意を表し、お礼を申し上げます。

母校を訪ねる会の終了後、送迎バスでおおたま温泉に行き、「アットホームおおたま」に泊まり込みでの第 13 回クラス会となりました。温泉に入り、飲み、食い、語り、歌い、旧交・絆を深め、楽しいひと時でありました。

翌日は、朝食後一先ず解散し、ゴルフ組、自由組、二本松菊人形組などに分かれて、それぞれ福島の秋を楽しみました。

皆そろそろ後期高齢者に仲間入りする歳となっています。毎年仲間の訃報も聞かれます。元気なうちが花であ



りましょう。折を見てまた「三九会」を開催して再会することを約しました。工学部の更なる発展に期待しつつ、今回お世話になった皆様にお礼申し上げます。

卒業50年に寄せて

電気 12 回卒 加藤木 研

私達は、昭和 39 年に当時の第二工学部を卒業しました。

あれから 50 年。月日が経つのは早いものです。当時、はつらつとした青年が、久し振りに逢うと、白髪あり、ハゲありと、大分様子が変わっておりました。私達が入学した時は、鉄筋コンクリートの建物は、本部の 3 階建てだけで、あとは旧日本軍の兵舎でした。

新入生は、三つに分けられ、大講堂の様な教室で学んだものです。先生が教室に入ってきて出席をとり、授業を始め、30 分もたつと三分の一がいなくなりました。しかし、語学（英語と独語）だけは、小さい教室で授業を行いますので、そうはいきませんでした。2 年生以降は、共通の教室での授業となりました。2 年生から 3 年生にかけては、アルバイトが忙しかった思いがあります。当時、郡山には喫茶店が数多くあり、そのウェイターやバーテンダーに、日大生が多数おりました。あの当時は、アルバイトが当たり前でした。

又、入学して 4 年で卒業するのが当たり前なのに、5 年、6 年生が多数おりました。あの当時は、応援団、空手部が幅をきかせており、入学時の 4 月は応援歌の練習が 1 年生に義務（？）付けられており、それを逃れるのに、色々な手段で逃げまわっておりました。今は、どの様にして応援歌の練習をしているのでしょうか？

今の学生の通学手段は、やはりバスが一番なのでしょう。先日、駐車場には多くの車が駐車していました。時代が違ふと感心しました。

校舎もきれいになり、学内も整備され、環境が良くなっていると感じられました。

これからも更に学内の環境が向上する事を切に望みます。

つれづれ会も40年

土木 22 回卒 岩重 芳人



毎年、「母校を訪ねる会」の案内をいただくと、平成16年10月23日の夜のことを思い出します。翌24日の卒業30年目の「訪ねる会」に参加するため、私たちは前夜郡山に集まり、今まさに懇親会を始めようとしていました。その時、新潟県中越地震が発生し、今まで経験したことのない大きな揺れを感じました。テレビニュースは、通信や道路が各地で寸断された様子を映し、地震の規模の大きさに驚くしました。すぐに、建設業に勤務する新潟の二人を帰したことです。

さて、私ども「つれづれ会」は、北海道から鹿児島県までの出身者で、学生番号の近い15名がなんとなく集まり、その名称も「徒然草」の序段に由来しています。連絡を取合い続け、時には再会し旧交を温めています。40年間も続いているのは、郡山で設計事務所を営む世話役の佐久間君によるところが大です。旧友との再会は、すぐに学生時代の昔話に戻ります。話している内容はいつも同じように思われますが、新鮮で楽しく感じられるのは、きっと在学中の4年間の思い出が素晴らしいものであったのだと思います。今回は定年退職後のこと健康管理についての話題が加わりました。

前日は、新潟の友人の車で久しぶりに五色沼・松原湖に行き、裏磐梯高原ホテルで休憩しましたが、弥六沼に面し色づく様は素晴らしいものでした。

磐梯熱海「ホテル華の湯」では、恩師で土木科の村田先生研修室の卒業生の懇親会もあり、先生や同期生も私どもの懇親会に加っていただき在学中の話題で盛り上がりました。

当日は、大きく発展・成長した母校を散策しながら、開催中の北桜祭の中に旧友を見かけ、再会に懐かしく声を掛け合いました。懇親会では「平成22年度卒業生・修了生を迎える会」が組込まれ、東日本大震災の混乱で卒業式ができず、今回学位記授与が行われたことは胸に迫るものがありました。

今後とも、母校の発展を祈念するとともに、我が「つれづれ会」の絆を大切にしていこうと思っています。

40年目「同じ釜の飯を食った仲間」集合

建築 22 回卒 伊藤 彰

私は入学と同時に「俊英学寮」に入寮、そこには全国各地から集まった新入学生が居り、朝・昼・晩、3食付、門限付きの当時としては厳しい寮でした。寮は1年限定でしたので2年次には仲間数名で寮のすぐ近く、新築間もない下宿「石川荘」に引っ越し卒業までお世話になりました。学校のすぐ近くでしたのでよく仲間が集まり、楽しい学生生活を過ごさせていただきました。今回集合した仲間は、卒業後個人的には何回かはお会いしましたがほとんど年賀状のやりとりのみでした。

今回「母校を訪ねる会」参加は、ひさびさに懐かしい仲間よりの一本電話から始まりました。福岡の山森君から「校友会から母校を訪ねる会の案内が来たよ！もう卒業して40年も経つんだね、俊英寮・石川荘の仲間はみんなどうしてるだろう」と電話話をしてその後まもなく、今度は、足柄の伊倉君から「みんな、どうするの行くんだろうか？」と言う電話が入り、それでは連絡とれる人に連絡してみるよと請け負ってしまいました。早速8名に連絡、私も当日の予定を変更し、前日磐梯熱海温泉に集合、前夜祭を行い翌日学校を訪ねる段取りとなり、福岡（山森君）、足柄（伊倉君）、横浜（亀山君）、千葉（小林君）、釜石（復興応援中の飯村君）、と各地から5名が駆けつけ計6名での同寮会となりました。25年ぶりに顔を合わせる人もおりやや不安を持ちながら夕方6時頃全員集合、一瞬にして40年前にタイムスリップ、時間とともに酒も進み盛り上がり楽しかった学生時代の思い出、お互いの近況報告 etc と、話に花が咲きました。ただ石巻の遠藤君が震災後病気で亡くなったことを報告しなければならなかったことが残念でした。思い出話で供養させていただきました。

25日朝、車2台に同乗し大学に向かいました。道中の町並みは当時の面影はほとんど無くなっていましたが学校の周辺も畑は無くなり住宅が密集し、当時の畑道は



しっかりと舗装の道となっていました。懐かしさは十分に感じ取ることが出来ました。早速、俊英寮・石川荘のところに足を運びましたが、残念なことに両方とも建物は無くなっていました。後で出村学部長から「寮は改築に備え解体したばかり」と、話を聞きなぜか「ほっと」しました。石川荘は大屋さんの建物が一部残っていたのと、となりに住んでいた若夫婦の「藤田さん」とお会いでき昔話をさせていただき懐かしさが増し良い思い出となりました。学校に戻り写真撮影の時思わぬ仲間に顔を合わせることができたこと、学園の近況、ロハスの研究施設を見せて頂き、全員「今回参加して良かった。又、会おうぜ」と絆を強く解散、各々帰路につきました。

校友会手塚会長・出村学部長はじめ、今回「母校を訪ねる会」を企画された関係者、お世話になった方々に深く感謝申し上げます。

建築学科 第32回卒業生 母校に30年ぶりに集いました

建築 32 回卒 山名 一郎

昭和 59 年（1984 年）に建築学科を卒業し、学友達が 30 年ぶりに母校に集いました。工学部キャンパスのシンボルともいべき正門から管理棟へと続く桜並木は今も健在で、10 月末ですから当然咲いてはいませんでしたが、満開の桜がまぶたに浮かびました。

銅像前での卒業年次ごとの写真撮影、50 周年記念館食堂での懇親会、キャンパスツアーという流れで学内を回りました。懇親会では、学生当時は若手の助手であった出村工学部長のあいさつで始まり、続いて震災で中止となった平成 22 年卒業証書の授与が行われ、母校に与えた被害の大きさを改めて知りました。会場では、学科を超えて多くの友人と再会でき、30 年の時の隔たりを忘れて楽しい歓談の時を過ごしました。懇親会の締めくくりとして応援団とともに応援歌、校歌などを歌い、当時の工学部長だった蓬田様の万歳三唱でお開きとなりました。キャンパスツアーでは、図書館棟、1 号館、3 号館、体育館など当時のままの校舎を懐かしい思いで見るとともに、管理棟など建替えられた校舎や新たに建てられた校舎を少しうらやましい思いで見回りました。各科が共同して取り組むロハスの研究施設見学では、時代のニーズへの学部としての取組みを知り、実際の住まいを模した実験棟は特に興味深く説明を伺いました。70 号館 9 階展望フロアからは郡山の街を 360 度見当たすことができ、街の発展ぶりに目を奪われました。

前日の 25 日には、建築学科の有志 14 名が土木科同期の佐久間君のお店で同窓会を行いました。当時から仲の良かった友人、当時は交流のあまりなかった友人、当日にはほぼ初対面に近い友人などもいましたが、同期とい

うことであつという間に打ち解け、学生時代と変わることもない語らいのひと時となりました。

この度の訪ねる会という機会を与えてくださいました校友会関係者の皆様に、心より感謝いたします。ありがとうございました。



北桜祭に「アルパカ」現る



今年度の北桜祭に「アルパカ」が現れました。本学建築学科 9 回卒の馬場瑛八郎氏のご厚意によるものです。当日は子息の馬場圭一氏とそのスタッフとともに学内を行進。来場者の人気を集めていました。



柳沼力夫研究室OBOG会

工化48回卒 坂口 梓



『あずさか --- ?』

と、会場の受付に到着すると先生からの第一声。先生と奥さまが目に入りました。研究室に通っていた頃とお変わらないお姿、そして笑顔です。更に少々印象が変わったけど確信を持って認識できた息子さんと私達同期の幹事さん。心の底からこみあげてくるものを堪え切れず、何から話していいかもわからず、ちょっとしたパニック状態でした。この気持ちは単に懐かしさや、数年ぶりの再会に感動しただけではないなんとも言い難い温かい気持ちがありました。卒業後定期的に開催されていたOBG会ですが、なぜ今回に限って出席しようと決めたのか…。

私は今、沖縄県にある久米島という離島に住んでいます。那覇市から西に100kmほど離れた小さな離島です。沖縄県海洋深層水研究所で勤務しております。アサクサ海苔の室内養殖を企業と共同開発に携わっています。東京から遠く離れたこの島で色々な出会いがありました。そしてお別れもありました。そして『会いたい』と思った時は動かないと、その気持ちが動く時のサインだと知りました。陸繋がりではない環境でのたくさんの後悔からの教訓かもしれません。色々な状況が重なり、沖縄から福島まで行くことができる自分でいられる今の私で会いに行こうと、なぜだか強く思ったのです。これをきっかけに同期とも再び連絡も取り合い、全員ではありませんが再会できました。

数年ぶりに訪れた福島県。高速道路の出口も県道も方角も道路沿いのお店の名前も、大学生の頃の記憶が…蘇らず(笑) 全て記憶違いをしていることにさみしくなりました。しかし、紅葉が美しい中のドライブは最高に気持ち良かったです。研究室にも立ち寄りました。研究室のあった実験棟の建物に入った時の空気感、冷たさ、におい、変わっていませんでした。本当に来てよかった。そして体いっぱい日本大学工学部の空気を感じながらし

ばらく北桜祭を見学し校内を歩きました。OBG会会場に向かう道中も紅葉が美しく、さらに夕暮れの空の色と寒さが美しすぎて興奮しました。初めて訪れた時に海と間違えた猪苗代湖でも寄り道。とにかく懐かしくて気持ちよくて幸せな気持ちいっぱいになりました。

OBG会でも豪快な飲みっぷりも、愉快的な雰囲気も、アーティスティックなおもてなしも、記憶の中の燃研飲み会はそこにありました。先生が変わらずお元気で、とってもお茶目で、お会いできてうれしかったです。今回のOBG会まで、その先もずっと笑顔で先生に会える自分で過ごしていきたいと強く思いました。

先生をはじめ燃研OBG会の皆様のご健康と、ますますのご発展を心よりお祈りしております。

ウーズレー歓送会

昭和33年に当時の学生がNHK放送局から購入し、工学部自動車部OB会(会長:高橋潔氏・電15回卒)が所有していた「ウーズレー」が、日本自動車博物館(石川県小松市)に寄贈されることになり、その歓送会が平成26年6月12日(木)、工学部本館前にて執り行われました。

自動車部OB会主催で行われた歓送会には工学部関係者とともに校友会役員数名も列席させていただき、工学部における「ウーズレー」の最後の勇姿を見送りました。

自動車部の学生とともに幾多の歴史を刻んできた「ウーズレー」。今後は日本自動車博物館にて大切に保管されることを願っております。



支部活動報告

北海道

建築 25 回卒 北海道支部長 横関 一伸

本年度支部総会は平成 26 年 8 月 22 日(金)に札幌全日空ホテルにて、第 65 回日本大学工科系校友会北海道支部桜工会と第 41 回日本大学工学部校友会北海道支部総会及び懇親会とを合同で、70 余名の参加者を得て開催されました。来賓には日本大学理工学部校友会副会長の木田先生をはじめ工学部校友会の杉崎副会長、村田相談役、生産工学部校友会の高野会長また大学側より工学部の堀井土木工学科教授、生産工学部の清水教授のご臨席を賜りました。今回は、まず工学部校友会北海道支部総会、桜工会総会そして集合写真撮影をして懇親会へと進みました。懇親会では大学の現状を各学部の教授にご報告頂きました。工学部の堀井教授には、工学部や郡山の状況、今年度の学部入学者が回復したこと、就職状況は 99%等と事細かく報告を頂きました。

東日本大震災後の北海道も建築土木に従事する作業員不足の状態がかなり続いています。郡山での学生生活を思い出し、みんな元気を出してこれを楽しみ切り、元気いっぱい再会を誓い、日本大学の絆を、そして日本人の絆を深める一日となり、ご来賓の皆様方とともに二次会へ繰り出しました。

11 月 28 日(金)には、道南支会の総会及び懇親会を函館にて行い 17 名の参加を数えましたが、あいにく当日は函館市役所の忘年会と重なり、市役所の会員が出席出来ませんでした。しかし会自体はかなり盛り上がり、夜遅くまで昔話に花を咲かせ、来年の再会を誓い合って解散しました。来年は 4 月下旬に工学部単独で開催致します。尚、北海道支部では北海道にお帰りになった方、又、新卒生の参加を歓迎しています。

関東

土木 17 回卒 関東支部長 盛武 建二

関東支部は東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、栃木県、長野県、茨城県、群馬県、山梨県の 1 都 8 県で構成されています。うち 1 都 5 県に、東京都校友会、神奈川県校友会、埼玉県校友会、千葉県校友会、栃木県校友会、長野県校友会を設置して活動しています。

また、茨城県、群馬県、山梨県には各県担当を置いており、総会、役員会の連絡を行っています。

平成 26 年 4 月からの総会、役員会は、7 月に関東支部役員会、11 月に栃木県校友会総会、12 月に千葉県校友会役員会を実施しました。27 年 2 月、3 月に東京都校友会総会などを予定しています。また、26 年 11 月には、千葉県君津市の駅前ホテルに 50 数名の工学部校友有志の方々が「川名寛章さんを励ます会」に集まり、工学部校友の親睦を図りました。

このほか、校友会の活動の広がりを図るために、平成 26 年 7 月に関東地区で開かれた工学部父母会、9 月に日本大学校友会東京第一支部総会、10 月に日本大学校友会千葉県支部総会などの支部総会に関東支部の役員、校友が出席して、日本大学校友会との親睦を図りました。

北陸

土木 22 回卒 北陸支部長 神林 幸夫

校友諸兄には、益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。

本年度の活動として、第 14 回北陸支部総会・懇親会を平成 26 年 7 月 26 日(土)に新潟東映ホテルにおいて参加者 49 名にて開催致しました。

来賓として校友会手塚会長・アカシア教育研究会久保田新潟県支部長のご臨席を賜りました。例年通り、懇親会では父母会新潟県支部の曽根支部長他 9 名の参加を頂き情報交換等を和気藹々で行うことが出来ました。

又、9 月 6 日(土)に懇親ゴルフ大会を「紫雲ゴルフ倶楽部」に於いて 5 組で行いました。今回は硬式野球部 O B の方が福島より 5 名出席して頂き交流を深めることが出来ました。

他役員会を年 4 回程度開催し、今後の活動について意見交換を行っている事が主な活動内容となっております。

現在北陸支部会員は約 190 名の方が登録されておりますが、県北～県南迄の距離が 300km と長く、富山石川を考慮すると 500km 弱となり公共交通機関も不便なことから、総会出席者が 3 割弱と少ない状況で、開催日時、場所を検討し 1 名でも多くの会員から参加して貰う方策を考えて行きたいと思っております。今後増々支部活動に対するご指導・ご支援をお願いし、活動報告とさせていただきます。



東海

電気 17 回卒 東海支部副支部長 高田 和典

日本大学工学部校友会の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

東海支部の平成 26 年度の活動と致しましては、例年通り、東海支部総会と忘年会を開催いたしました。残念ながら、ゴルフコンペの開催は行うことができませんでした。しかし、来年には開催したいと思っています。

支部総会は 7 月 18 日(金)に昨年と同様に名古屋観光ホテルにて校友 35 名の参加と、校友会からは、来賓として工学部校友会副会長 中野伍朗様、工学部土木工学科古河幸雄先生をお招きして、大学の状況を各々ご報告いただき、引き続いて会計報告・年間活動報告等があり原案通り承認され、総会は無事終了しました。

その後は懇親会に移り、校友同志、先輩後輩の分け隔てなく、酒を酌み交わしながら語り、楽しいひと時を過ごしました。余興として、土木 32 回卒の乾君と 2 人の共演者 3 人でサクスの演奏をされ、アマチュアとは思えないほどの名演奏で大いに盛り上がりました。最後には参加全員で校歌、若きエンジニア等を熱唱し、閉会となりました。

そして支部最後の行事として忘年会を少し早いのですが、11 月 28 日(金)に 24 人の参加のもとで開催されました。酒を酌み交わしながら今年色々あったことなどを和気あいあいと話しあい、良い年を迎えられることを願って終了しました。

43 回の開催となりますと、出席者も高齢となり若い後輩の参加者が少なくて、支部総会・忘年会の参加者が減少傾向です。他支部にて良案があれば、是非ともご伝授願いたいと切望しておりますので、宜しくお願いいたします。



東東海

土木 27 回卒 東東海支部長 大澤 俊幸

今年 2 月 3 日(火)の節分の日に平成 26 年度日本大学工学部校友会東東海支部 (静岡アカシア会) 幹事会を静岡駅前の味楽天にて開催しました。学校側から、長林教授、渡辺教授、高木専任講師、林就職指導課主任など約 30 名近くの参加をみた。自分が会長などやる立場、器ではないのは十分理解しています。ではなぜこの職を受けてしまったのか?その理由は至って簡単、シンプルであります。それは『頼まれごととは、試されごと、返事は 0.2 秒で』、その答えは『はいか、YES か、喜んで』この 3 つしかないと教えていただきました。そしてなお相手の期待を上回るということを学んだからです。そしてできない理由は言わない。返事を 0.2 秒ですということとは頭の中で考えない、すなわち損得勘定でものごとを判断しないということです。このことを当時会長を引き受ける際に中村文昭さんの講演会で聴いて、以来実践していこうと決めていました。そしてジャストタイミングで受諾してしまいました。残念ながら現在も先輩たちの期待を上回るころまではいっていませんが、本気、全力の気持ちだけはもっています。先輩と後輩たちと絆を深く競争するのではなくて協力する会、教えあい助け合うそういう会にしたいと決めたので、自分のできることを微力ながらお手伝いをしていくことにしました。やらせていただいたお陰でとてつもなく大きな出会いという財産をいただくことになりました。もしあそこで断っていたら、今の自分はないというくらい大きなことでした。誰から見ても当時アカシア会の歴代の先輩たちは偉大でその立ち上げていただいた方が自分でいいと賛成していただいたのだからその器の大きさははかりしれません。だからこそこのアカシア会をしっかり後輩たちに受け継いでいかなければいけない、そう思います。以前にも書かせていただきましたが工学部は、福島県郡山市にあり、多くの学部が都心にある中で唯一東北圏にあります。今でこそ静岡から 2 時間 30 分で行けますが、自分が在校中には一番早くても 5 時間近くかかりました。それゆえに校友との絆は固く、この校友会に多くの先輩、後輩が集うのもわかる気がします。特に先輩たちは県や市また企業で活躍され、現職でも県や市、企業におかれてはみんななくてはならない貴重な存在になっています。そして専門職として自分の道を究めていたり、自営で頑張っていたり、それぞれが社会の為に貢献し、人の為に体を張っています。毎年、静岡県の職員や各市町村の職員、静岡県のなくてはならない多くの企業、また後を継ぐ家業の後継者、さらに静岡県の教員採用試験にも工学部出身者が合格し、今や県内ほとんどの工業高校に配属され、後輩の育成に携わっています。今、自分がこの職業に就き、生徒の為に働けるのも母校日大があるからです。それ唯大学から学んだことを含めて母校に優秀な人材を送り恩返しをしていきたいと考えています。4 年間同じ下宿で先輩たちにお世話になった一年生の時、特にその時の縦の厳しい上下関係が社会に入った時に役にたっているのだらうと思います。そんな先輩やまた最近では後輩も沢山参加してくれ、楽しい会になっています。やはり、人間の成長は人の出会いと経験だと思っています。総会を今年は年が明けてしまいましたが 3 月 6 日に沼津のリバーサイドホテル (旧東急ホテル) で実施してさらに出会いを楽しみたいと思っています。

平成 26 年度四国支部総会は、平成 26 年 7 月 5 日(土)に校友会より手塚会長をお迎えして、月例会「一木会」の会場である居酒屋「はんぶん」(香川県高松市)に於いて、四国 4 県の校友 25 名の出席により開催されました。

総会は、六車支部長(土木 16 回卒)を議長として終え、懇親会も白井康司氏(電気 22 回卒)のエールのもと、校歌を歌い盛会の内に閉じました。

翌週の 7 月 13 日(日)に愛媛県松山市で工学部父母会が開催され、六車支部長と渡辺圭一郎氏(土木 26 回卒)、愛媛県より青木徹夫氏(土木 21 回卒)と私の 4 名が出席しました。座談会の中で、今後は校友会四国支部と父母会の合同懇親会の開催も視野に入れて、両団体の工学部に対する、これからの協力についての話し合いがもたれました。

四国支部各県校友会の活動と致しましては、愛媛県校友会が 10 月 18 日(土)に校友 13 名の出席により開催され、会長が安井正彦氏(電気 15 回卒)から永井次郎氏(建築 14 回卒)に替わられました。徳島県と高知県は、開催を計画中で、香川県は春頃に予定をしています。また、毎月第一木曜日の月例会「一木会」も引き続き開催しています。この一木会のキーワードは「郡山」でどなたでもすぐ仲間になれますので、皆様、ぜひ気楽にお立ち寄り下さい。

尚、私事ですが、10 月 24 日(金)に郡山で開催された建築士会の全国大会に参加して、その懇親会では、愛媛県の山田順氏(建築 23 回卒)のお世話になり、その後は同期生数名と旧交を暖めました。翌日は、北桜祭を訪ねて、吹奏楽部の先輩方にもお会いし、工学部校友会本部等にも立ち寄りさせて頂き、お世話になりました。

母校の、この二十数年間での変貌には驚かされましたが、今後の益々の発展を期待しています。



新年あけまして、おめでとうございます。

本年もよろしくお願ひいたします。

昨年平成 26 年 10 月 10 日(金)に、第 34 回日本大学工学部校友会九州支部総会を、福岡市博多区にあります「ハイアットリージェンシー福岡」で開催いたしました。九州全域に案内しましたが、今回の出席は 35 名ほどでした。

総会は脇山支部長(建 29 回卒)の挨拶から始まり、事務局より年間の活動報告及び、後藤先輩(機 32 回卒)から会計報告があり、懇親会へ入りました。

懇親会開催の挨拶におきましては、校友会手塚会長に、郡山より出席していただき、第二の故郷である郡山、そして母校の近況を教えてくださいことができました。また、日本大学工学部校友会のロゴ入りストラップを参加者全員に頂き、私等は、校友会の輪が広がることを願いつつ、早速携帯電話に取り付けております。

懇親会は、8 名一テーブルの円卓盛り形式での会食でしたが、石本先輩(建 12 回卒)の乾杯のご発声後、皆さまは、ビールを片手に各テーブルを回って、学生時代等の話で盛り上がりおりました。例年は、各テーブルの着席順に自己紹介を行っていましたが、一昨年より、2 時間の短い時間の中での懇親のため、任意で、「アピールタイム」と題して自己紹介を行いました。各テーブル、各所での懇親の場が盛り上がり、ほとんどアピールタイムが取れないほどでした。

2 時間の懇親会もあっという間に終わり、全員で「校歌斉唱」と、ご当地恒例の「博多祝いめでた」、「博多手一本」そして集合写真では、皆さまの携帯での写真撮影もあり、予定しておりました閉会の時間よりかなり押していたようでした。また、後程の話では、2、3 次会も有り中州でも会長ほかかなり盛り上がったとのことです。

今後も支部が活性化し数多くの方が総会に出席していただけるよう努めて参ります。また転勤等で九州に来られた方もたくさん出席して頂きたいと思ひます。就職や転職などの相談もあれば、お気軽に事務局まで声かけ頂けるように御願ひいたします。



●麻生廉彦氏（建 15 回 元大分工業高校校長）

平成 26 年秋の叙勲において麻生廉彦先生が教育功勞により瑞宝小綬章を受章されました。大分県工業教育の振興はもとより、工学部後輩教員の育成に多大な功績を残されました。

●学術研究報告会（H 26.12.13）

優秀な高校生を母校に送るとともに、本支部の大きな柱は校友教員相互の研修・親睦をはかることでもあります。その場である研究報告会は、昨年度より力を入れて来ました。本年度は、多くの校友教員が出席くださり、盛会裏に開催出来ました。（詳細は工学部校友会HP参照）

●全国工業高等学校長協会理事長に棟方克夫氏就任（工化 26 回）、校友校長会開催（H 27.1.24）

棟方理事長就任をお祝いすると共に工学部の一層の発展を計るために 9 名の校長先生等の出席のもと学部との意見交換会を開催しました。



学術研究報告会「発表支援金」について

校友会では学術研究報告会で発表を行う校友に対し「発表支援金」の支援を行っております。今年度は以下の 9 名に支援しました。例年 11 月ごろ工学部校友会ホームページに「発表支援金の申請について」の告知を掲載しております。今後、学術研究報告会にて発表を行う際は是非ご活用下さい。

(敬称略)

氏名	卒科 / 回	発表・報告演題
宮崎 拓也	土 49	工業教育における教育実践事例（2）～高校十年目経験者研修を終えて～
浦 憲親	建 19	土を主材にした建材の基礎実験 –その 1–
松下 信禎	建 42	授業力向上に向けた校内研修の工夫～授業改善チェックシートの開発～
油井 敏和	建 45	「地域産業の担い手を育成する新しい工業高校の教育課程の編成と実践」その 2
田畑 剛	建 52	「高等学校における設備工業教育の取り組みについて」
千葉 祐揮	建 60	工業教育 I ～静岡県立浜松工業高等学校定時制の課定 建築専攻について～
小松原直樹	電 33	キャリア教育と進路指導～工業高校と総合高校の現場から～
田坂 優太	電 57	工業高校における特別活動の推進について
今 尉	化 34	ICT を活用した思考力・判断力・表現力を育む授業改善に関する考察

平成26年度版会員名簿が完成

平成 26 年 9 月、「平成 26 年度版会員名簿」がついに完成しました。名簿の他に資料のつまった一冊に仕上がりました。販売価格は 6,000 円（送料込）です。お求めの際は事務局までお問い合わせ下さい。



技術で人の命を救う

独立行政法人 交通安全環境研究所 主席研究員
機械 39 回卒 松井 靖浩



私は、オートバイ好きが転じて機械工学科に進み、卒業後は自動車の安全性評価試験手法の研究・開発の仕事に従事しています。私が就職した1994年、年間の交通事故死亡者数は10,653人と驚くべき多くの方が犠牲となっていました。2013年はその数は4,373人となり、約20年でほぼ半減しました。しかし、最近は死亡者数の減少は鈍化傾向にあり、歩行中の死亡者が最も多い状況です。こうした交通事故による歩行者を守る対策として、車両には歩行者保護試験が課されています。

歩行者保護試験の1つに頭部保護試験があります。この試験は、自動車が歩行者に衝突した時、歩行者の頭部が受ける衝撃を測定することで、その自動車の安全性を評価します。人体の頭部を模した歩行者頭部模型（頭部インパクト）を自動車のボンネットやフロントガラスに射出衝突させ、頭部傷害値を算出します。私は日本で初めて頭部インパクトの開発に成功し、2005年より国土交通省が技術基準として実施している車両安全性評価試験において、その頭部インパクトが使用されています。開発にはかなりの労力と試行錯誤を要しました。たとえば、異常数値が計測された際、詳細な解析や検討から加速度計の構造に問題があることを発見し、オイルダンパ

付き加速度計を用いることでなんとか問題を解決しました。こうした苦勞の甲斐もあり、現在は自動車アセスメント（安全性能を星印で表示）でも使用されています。私が開発した頭部インパクトが歩行者保護試験や自動車アセスメントで採用されたことは大変光栄なことでもあり、歩行者の死亡減少に大きく寄与していると感じています。

車のバンパーの安全性を評価するため、人間とメカニカルな歩行者脚部模型との硬さの違いを考慮し、脚部の衝撃耐性を導出しました。その衝撃耐性は、欧州の基準に反映されるに至っています。

最近、センサで歩行者を検知し、自動ブレーキで衝突速度を下げる装置を搭載した自動車が販売されています。発売当初からこの装置に着目し、実際の自動車を使用した実験だけではなく、人間の行動特性についても調査しました。その結果を基に提案した装置の安全性評価試験手法は2016年から開始される欧州の自動車アセスメントで採用される予定です。

こうした結果を出すことができたのも、一つ一つの事象や改良を積み上げながら技術的な課題を克服し、前進した成果だと思っています。大学院での留学時代、最初の半年は言葉の面で意思疎通がうまくできずかなり苦勞しましたが、研究の進め方について身をもって学ぶ機会を得たことが、今日の研究スタイルに繋がっています。こうした成果は決して自分だけで達成できるものではなく、多くの同僚や協力して下さる方々、国内外の研究者が連携して成し得る技です。大学において恩師の先生方にご指導いただいたことが自分の人生を大きく左右したことは言うまでもありません。これからも、日大工学部で取得した工学と志に磨きをかけ、技術で人の命を救うことを胸に、あらゆる角度からのアプローチで交通事故犠牲者の激減を目指し努力していく所存です。



●学生募集

工学部では、自分の得意を生かせる多彩な入試制度を設けております。“3教科型と5教科型が選べる一般入試C方式”“校友子女入試”“得意な数学を生かせる一般入試CA方式”など、ご自身の得意分野を生かした受験が可能です。お子さん、お孫さんなど、身近に大学入試を控えている方がおりましたら、ぜひ「日本大学工学部」への進学をご検討下さい。

【入学試験に関するお問い合わせ先】

日本大学工学部 入試係

TEL 024-956-8619 FAX 024-956-8888

E-mail nyushi@ao.ce.nihon-u.ac.jp

※各試験の詳細等については、下記ホームページ(工学部入試案内)をご覧ください。

<http://www.ce.nihon-u.ac.jp/nyugaku.html>

●工学部教員定年退職者

(平成26年1月～12月)

建築学科	倉田 光春	(平成26年3月31日)
	若井 正一	(平成26年3月31日)
機械工学科	森谷 信次	(平成26年3月31日)
情報工学科	武内 惇	(平成26年3月31日)
総合教育	佐藤 彰	(平成26年3月31日)



●平成26年度課外活動結果一覧

サークル名	大会名	結果	詳細
ラグビー部	福島県7人制ラグビーフットボール大会	準優勝	
射撃部	第32回東北ライフル射撃選手権大会	3位	10m ARS40w
		2位	50m 3×20w
	第67回福島県総合体育大会ライフル射撃競技	優勝	10m 成年男子立射 60発 近内 貴志
		優勝	50m 成年男子 3×20発 近内 貴志
	第41回東北総合体育大会兼平成26年度国民体育大会東北ブロック大会	3位	成年女子 3×20発 菊地 映美
		2位	10mS60M 近内 貴志
	第36回東北三県対抗ライフル射撃選手権大会	3位	50m 3×20W 菊地 映美
		優勝	エアライフル伏射 60発 近内 貴志
	2位	エアライフル立射 60発 近内 貴志	
	優勝	スモールボアライフル 3姿勢 60発 菊地 映美	
	福島県ライフル射撃選手権大会	優勝	50m 3×20w 菊地 映美
陸上競技部	平成26年度日本大学体育大会	優勝	1500m 伊藤 和樹
		3位	100m 田中 通寛
	第65回東北地区大学体育大会	3位	走り幅跳び 田中 通寛
	第67回福島県総合体育大会陸上競技大会	3位	走り幅跳び 田中 通寛
	第43回東北学生陸上競技選手権大会	3位	走り幅跳び 田中 通寛
第38回田村市常葉ビートル駅伝大会	3位	団体	
剣道部	第62回東北学生剣道選手権大会	3位	紅谷 昂
空手道部	第65回東北地区大学体育大会	3位	男子団体組手
		3位	男子個人形 大塚 勇佑
	第27回全日本理工科系大学空手道選手権大会	3位	男子団体組手
柔道部	第55回全日本理工科系学生柔道優勝大会	準優勝	団体
		1位	廣澤 孝
		2位	森 海斗
		3位	小林 巧征
	第52回郡山市民体育大会柔道競技大会	3位	団体

サークル名	大会名	結果	詳細
杖道部	第19回「花の江戸杖」	3位	個人戦・段外 大木 美歩
		2位	団体戦A 日本大学工学部 exp
		3位	団体戦A 日本大学工学部 sin
		2位	団体戦B 日本大学工学部 exp
バドミントン部	平成26年度日本大学体育大会	3位	団体
鐵道研究会	第6回全国高等学校鐵道模型コンテスト 大学生モジュール部門	理事長特別賞	
卓球部	平成26年度日本大学体育大会	2位	女子オープン部 鈴木 涼子
	第14回福島民報杯職域・クラブ対抗卓球大会	準優勝	Aチーム
		3位	Bチーム
洋弓部	第11回福島県学生アーチェリー選手権大会	優勝	50m30m ラウンド 武田 拓也
		準優勝	50m30m ラウンド 鬼澤 慶弘
		3位	50m30m ラウンド 兼子 堯大
弓道部	第9回東北地区学生弓道選手権大会兼 第62回全日本学生弓道選手権	優勝	男子 小林 岳
		優勝	女子 秋山 千幸
ボクシング部	第41回東北地区大学トーナメント大会	準優勝	フライ級 福土 颯
		準優勝	ライト級 宮崎 俊
		準優勝	バンタム級 小林 中
日本大学工学部 相撲同好会	郡山市民体育祭相撲大会	優勝	村上 悠
		準優勝	上ノ内 蒼直

●工学部平成27年度行事予定

教養講座【総合テーマ：感謝～東日本大震災から4年を経て～】

講演月日	講師	演題
5月14日(木)	元経済産業省官僚 古賀茂明政策ラボ代表 古賀 茂明 氏	【若者と安倍政権 原発とアベノミクスと積極的平和主義の真実】
5月21日(木)	株式会社キクチ 代表取締役社長 菊地 逸夫 氏	【逆境に立ち向かう企業家たち～3.11直後、地域を守る行動をした中小企業家がいた～】
5月28日(木)	メンタルトレーナー 田中ウルヴェ京 氏	【アスリートのキャリアトランジションに学ぶキャリアプランニング】
6月4日(木)	国立科学博物館 名誉館員 松原 聰 氏	【鉱物を学び、地球を考える】

オープンキャンパス

日時	名称	プログラム
8月8日(土)・9日(日) 9:30～16:00	オープンキャンパス2015	学科ガイダンスなど
10月24日(土) 10:30～16:00 ----- 25日(日) 10:30～14:00	ミニオープンキャンパス2015	学科紹介・オモシロ体験コーナーなど

教養講座・オープンキャンパスの詳細については日本大学工学部ホームページにて近日中に掲載される予定です。

●三世代表彰の対象者募集

日本大学工学部及び校友会では、10月開催の「母校を訪ねる会」席上において、専門部及び第二工学部、工学部を三世代（祖父母、父母、孫）に渡って卒業した校友をお招きし、表彰しております。

該当される方は、下記の要領で対象者を募集しますので、どうぞ奮ってご応募下さい。

記

1. 応募資格 祖父母、父母、孫の三世代に渡り専門部及び第二工学部、工学部を卒業した人（自薦・他薦は問いません）。
※但し、昭和41年4月の学部名改称以前の工学部（現理工学部）の卒業生は含みません。
○直系にはこだわりません。例：「母方の祖父・父・孫」などでも可。
2. 応募方法 「はがき・FAX・校友会ホームページのお問い合わせフォーム」にて受け付けます。
○いずれの方法も必ず「3人の氏名・卒業年・卒業学科・連絡先（住所・電話番号）」を明記して下さい。
書式は指定しません。
3. 応募締切 平成27年7月24日(金)
4. その他 資格対象者には、後日、ご案内をお送り致します。

●アカシア文庫への 寄贈本・寄贈者の紹介

以下の3名様より寄贈していただきました。ありがとうございました。

寄 贈 本	寄贈者（敬称略）
炭のすべてがよくわかる 炭のかがく（誠文堂新光社）	柳沼 力夫（化7）
自閉症児の教室の構造化 （小林出版）	西島 衛治（建22）
実践的ボランティア論 （小林出版）	
高齢者・障害者を配慮した建築 設計チェックリストと実施例 （理工図書）	
研究論文集及び研究業績一覧(2) 1993～2010 （九州看護福祉大学 西島衛治研究室）	松井 靖浩（機39）
クルマの安全性能ガイドBOOK （国土交通省）	

●住所変更について

転居、転職の際は、校友会事務局までご一報下さい。
「電話・FAX・郵便・ホームページのお問い合わせ
フォーム」にて承っております。

●日本大学工学部校友会 会員通信費寄付者ご芳名

（敬称略 平成26年2月1日～平成27年1月31日）

● 61 回卒	土 木 坂井 真	電気電子 鈴木竜太郎
● 62 回卒	土 木 関 佳太 星 大輔 横山 明生 宮城 昂平 建 築 小野 克起 児玉亜由美 古侯甲太郎 齋藤 誠 佐藤 直人 鈴木 成美 山田 和樹 和田 利也 機 械 猪狩 聡治 近江 晋史 末原 弘基 飛田 智広 松鶴功一郎 千賀 功陽 電気電子 尾形 祥平 落合 佑亮 鈴木 貴大 只野 貴大	電気電子 船山 貴充 別井 貴紀 上野 竜一 生命応用 飯田祐一郎 大久保亮佑 金子 昂平 工藤 優貴 齊藤 智紀 佐藤 憲幸 平川氷勇馬 森谷 哲人 情 報 芦間 大輔 阿達真美子 嵐田 真司 伊藤 雅人 大平 正志 勝又 達哉 木村 智祐 古谷野博行 鈴木 貴久 武田 尚也 川崎 哲

●課外活動への支援

体育会・学術文化サークル連合会所属の以下の13団体に課外活動支援金の援助を行いました。各サークルから寄せられた感想と今後への意気込みを紹介します。

支援団体からの感想	
体 育 会	
団 体 名	感 想
空 手 道 部	今回、支援金を頂くことができたため、前年度よりも活動の幅が広がり、より多くの大会等に参加する事ができました。部員の数も少なく、大会参加費や交通費等の1人1人の負担が多かったため、少しでも負担を減らす事ができ、とても助けになりました。また、前年度よりも出れる大会が増えたため、部員達の意識も高まり技術の向上やこのような結果につながったと思います。今後もこのような機会が頂けるように、一生懸命、部活動に取り組んでいきたいと思っています。ご支援ありがとうございました。
剣 道 部	今回の支援金で選手一人一人の金銭面での負担が減り、その分、普段の練習に集中することができ、その結果、昨年度に続き、全国大会に一名出場することができました。今後は、今年度同様、選手を全国大会に出場させるのはもちろん、もっと多くの選手を出場させるようがんばっていきます。
硬 式 野 球 部	硬式野球部は、現在50名近くの部員がおり、活動費に大変苦労しております。また、リーグ戦やオープン戦で遠征もあり、旅費もかかり、各自の負担もかなりの額となっております。そんな中で、課外活動支援金を支給していただき、大変助かりました。今後は、平成17年以来2度となる、全日本大学野球選手権大会出場を目指して、精一杯、活動してまいりますので、今後とも、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。
水 泳 部	〇B・〇Gの方へのはがきと切手代の費用が毎年かさむため、支援金はとてもありがたいです。今後、工学部校友会の支援金で、部の運営がなりたっている自覚を持って、部活動に励んでいきます。
軟 式 野 球 部	今回、校友会から支援金をいただいて、負担が軽くなり、プレーに集中することができました。ありがとうございました。今年度は全国大会出場の見込みはできませんでしたが、来年度は目標達成できるようチーム一丸となって頑張ります。
洋 弓 部	平成26年度は、数多くの大会に出場し、入賞もありました。東北学連の大会では、参加費、交通費の他、旅費も発生することもありましたので、今回の課外活動支援金の金額は、とてもありがたいと思いました。今後は、東北学連の大会では個人戦入賞、決勝トーナメントや団体でも入賞を目指し、練習の質をさらに上げて、洋弓部一丸となって頑張っていきたいと思っています。
ラ グ ビ ー 部	昨年度に引き続き、ご支援を賜り、まことにありがたく存じます。さて、今回のご支援の内訳ですが、当部が在籍する東北地区ラグビーリーグのチーム登録費として活用させていただきました。成績は4位と昨年度より一つ順位を下げる悔しい結果となりましたが、来年度は部員の勧誘や練習に更に力を入れていきますので、今後とも、ご支援よろしくお願い申し上げます。
ラ ク ロ ス 部	今回の課外活動支援金を贈呈していただき、誠にありがとうございます。昨年度から体育会連盟に加盟したこともあり、支給される活動費がかなり少ない状況で、大会やイベントの開催場所が県外に多いため、どうしても遠征費が多く掛かってしまいました。支援金をいただいたおかげで、交通費による部員の金銭的負担を軽くすることができました。我々の第一の目標は、強くなることです。昨年度の新人戦では準優勝し、フレッシュマンキャンプでは、二年連続でMVPをとることができました。このような良い成績をとり続けられるように、今後もラクロス部一同、強くなることに貪欲に活動していきますので、よろしくお願い致します。
射 撃 部	支援金は不足していたイス等、部員達の要望を叶えるために使わせていただきました。普段なかなか買えないものを買うことができ、とても感謝しています。来年度は全国大会での優勝・入賞を目指し精進していく思いです。

学術文化サークル連合会

団 体 名	感 想
サイクリング部	非常に経済的に困窮していた所だったので、とても助かりました。不足しがちであった整備用のケミカルもそろえることができました。今年度も積極的に活動してきましたが、来年度はさらに、このサークルを盛り上げていきたいと考えています。
美 術 部	美術作品の製作は様々な画材や道具を要し、その分費用がかかります。支援金のおかげで自由に伸び伸びとした制作活動を行うことができました。今までの絵画だけにとどまらず、立体物の造形や塗装などといった分野にまで臨むことができ、北桜祭に開いた展示会では多ジャンルにわたる見応えある作品たちが来場者を沸かせておりました。支援金の一部を使い、部室に念願だった共用のデスクトップPCを購入し、ソフトウェアを活用した絵画の制作や資料の印刷、写真の共有をすることができるようになったことで、益々の活動の発展が期待できるようになりました。
吹 奏 楽 部	支援金は定期演奏会を開催するにあたり、運営費として使わせていただきました。支援金のおかげで、部員の負担も軽減され、スムーズな運営を行うことができました。ありがとうございました。今後も吹奏楽コンクールを始め、器楽の祭典、定期演奏会など様々な行事に参加していきたいと考えています。ご支援、ご協力のほどよろしくお願い致します。
茶 道 部	支援金を頂いたことで、備品が充実することができ、来年度よりの活動をより活性化する下地を作ることができたと考えています。活動内容として反映できるよう努力する所存です。

日本大学工学部校友会各位

平成 27 年 3 月 1 日
校友会会長 手塚 公敏

平成 27 年度 通常総会通知

本会会則第 13 条により、日本大学工学部校友会平成 27 年度通常総会を下記の通り開催いたします。皆様には年度始めにあたりご多忙中とは存じますが、万障お繰り合わせの上、多数ご出席くださいますよう、ご通知申し上げます。

記

1. 日 時／平成 27 年 4 月 25 日(土) 13 時より
2. 場 所／日本大学工学部 50 周年記念館
3. 議 題／(1) 平成 26 年度会務報告および決算報告
(2) 平成 27 年度事業計画および予算審議
(3) その他
4. 懇親会／総会終了後、大学関係者を迎えて懇親会を開催

第 35 回 母校を訪ねる会

日 時／平成 27 年 10 月 25 日(日)
場 所／日本大学工学部 50 周年記念館
(ハットNE) を予定
対 象／第 13 回卒業生 (昭和 40 年 3 月卒業)
第 23 回卒業生 (昭和 50 年 3 月卒業)
第 33 回卒業生 (昭和 60 年 3 月卒業)
第 43 回卒業生 (平成 7 年 3 月卒業)
第 53 回卒業生 (平成 17 年 3 月卒業)

今回は左記の卒業生が母校訪問の主たる対象となりますが、対象年度に関わらず、ご来校ください。大きく発展・成長した母校をご覧いただき、恩師や旧友との再会に懐かしい一時をお過ごしください。この日は第 65 回北桜祭開催中です。

なお、クラス会を予定されている幹事の方は校友会にご一報頂ければ幸いです。

卒業後 50 年以上の校友全員も招待対象としています。どうぞ御来校下さい。

校友会報 第 78 号



発 行 者 日本大学工学部校友会
福島県郡山市田村町徳定字中河原 1
郵便番号 963-1165
電話番号 024-944-1327
FAX番号 024-944-1327
E-mail : info@kouyu.ce.nihon-u.ac.jp
URL : <http://www.nichidai-ce-koyukai.com>

発行部数 49,000 部
発行日 平成 27 年 3 月 1 日
発行責任者 校友会会長 手塚 公敏
編集責任者 編集委員長 土方 吉雄



この印刷物はベジタブルオイルインキを使用しております。